

〔出席委員〕 河村壮一郎、西坂千代子、吉田知子、桑垣智志、荒瀧美由紀、米田美奈子
明德一志、名越和範、小谷次雄、山下千之、笠田直樹、牧田悟（敬称略）

| | |
|-------------|--|
| 1 開会 | |
| 司会 | (開会の宣言) |
| ①開会挨拶、委嘱状交付 | |
| 教育長 | <p>平成28年度は倉吉市教育委員会にとって、教育振興基本計画の第2期のスタートの年にあたる。第1期については、皆様にお世話になり初期の目的を達したのではないかと思う。改めて一番最初の時のことを考えてみると、「明日の倉吉の教育を考える委員会」（平成20～21年度）から6つの柱の13項目の提言をいただいた。その内容としては、倉吉の教育理念・教育目標・倉吉らしさを考慮した教育課程をつくること、併せて、学校・家庭教育・社会教育をつなぐもの考えること、そして、学校の適正規模・配置について検討することという大きな宿題をいただいた。それを受けて、第1期の教育振興基本計画を策定し、学校の適正配置について答申をいただき草案を公表し、5年間それを説明してきた。学校の適正配置については、今までは案ということであったが、昨年度だけでも47回の会合をし、シンポジウムも5年間の間に3回実施しながら、案を計画にした。本年度からは、小学校区別にこの計画の説明をしているところである。様々な考え方がある。100%の賛成はまずなく、100%反対から出発するんだということで議論を進めてきた。しかし、倉吉市の教育にとって避けては通れない問題であり、ご理解をいただけるようお願いをしてきた。だいたい7～8割は、統合せざるを得ないという理解をしていただけるようになったが、各論になってくるとなかなか難しいものがある。今後もしっかりと議論していきたい。また、5年前は「山上憶良とは一体誰だ」という話があった。今年は山上憶良が伯耆国にきて丁度1300年になる年であり、それを記念し短歌賞を全国展開したいと考えている。倉吉らしさを追求することが、少しずつできてきたと思っているところである。</p> <p>2年間にわたり、倉吉の教育の進め方についてご意見をいただければと思っている。どうかよろしくお願ひしたい。</p> |
| 全員順番に | 自己紹介 |
| ②会長、職務代理選出 | |
| 司会 | 審議会条例を使って会の主旨説明 |
| 司会 | 会長を選出する必要がある。事務局案を提案してよろしいか。 |
| 司会 | 会長を引き続き小谷委員にお願いしたい。 |
| | (拍手をもって承認) |
| 司会 | 職務代理は会長に指名していただきたい。 |
| 会長 | 職務代理を名越委員にお願いしたい。 |
| | (拍手をもって承認) |
| 司会 | 資料確認・会の時間の予定確認 |
| 2 事務局より | |
| 事務局 | 協議事項(1)(2)について資料に沿って説明 |
| 3 協議 | |
| 会長 | 協議事項(1)(2)について質問があるか。 |
| 委員 | 「倉吉市教育振興基本計画」にある項目と「平成28年度学校教育基本方針と重点施策」にある項目の順番が入れ替わっている。また、「平成28年度学校教育基本方針と重点施策」と「平成28年度教育委員会の重点施策に基づく実施計画」とでは、タイトルがちょっとずつ変わっている。大元が振興基本計画であるならば、全部がそれにリンクしている方がいいのではないか。 |
| 事務局 | 関連性のあるところはまとめるよう見直しをしていく。 |
| 教育長 | 基本計画は5年かかって実施していくものであり、これが全て初年度から順番にできるわけではない。予算要求をして予算がつくつかないもあり、若干違って |

| | |
|-----|---|
| | くる。そこのところを頭に置いてほしい。5年かけて実現したいとは思っている。何か具体的な指摘があれば説明する。 |
| 委員 | レジュメ4ページの左下に幼児教育がない。 |
| 事務局 | 「よりよい倉吉教育」に含んでいる。 |
| 会長 | バラバラになっていて見にくい部分はある。 |
| 委員 | 小学校にALT2名をどうやって配置するのか。教育委員会の方から、児童の数やALTとコミュニケーションができる教員の有無等を基準にして決めるのか。一番大事なのは学校のやる気である。うちでやりたいと希望している学校に配置した方が効果が高い。 |
| 事務局 | 配置校については、西郷小学校と小鴨小学校に決定している。 |
| 委員 | それはどういう基準か。 |
| 教育長 | それを進めていく教員の中で、力のある教員がいるかどうかを大きな判断基準にした。西郷小の者は文科省にも研修に行っている。小鴨小も力のある者がいる |
| 委員 | 近年、アクティブラーニングが大事であるという方向性であるが、教員・保護者にどこまで理解が広がっているか疑問に思う。私自身の体験として、中学時代は河北中であったが、自学自主学習ということで取り組んでいた。中学時代は別に違和感もなかったが、高校に入学して一斉授業に違和感がありとまどった。ひどい場合は、「お前は河北中から来たか…」と言われた。そういう学習をしてきた中学校は学力がないというニュアンスで言われた気がした。よかれと思ってしたこと、全体の共通認識がないと悪影響を及ぼすことになってしまう。私としては中学校時代の学習方法は良かったと思っている。だから、アクティブラーニングについて、教員・保護者にどのくらい理解があるか情報があったら教えてほしい。 |
| 事務局 | 教員の方は、計画訪問や授業研究会の中で、市教委・中部教育局が子ども達が主体的に学ぶ学習についてアドバイスしている。保護者に関しては… |
| 教育長 | 主体的に学んでいくということは、小中学校については遙か以前から取り組んできた。アクティブラーニングは、どちらかというと高校教育についてで、高等学校課の方から入ってきた言葉である。「小中学校はそんなことはすでにやっている」というのが私たちの認識であった。「今までやってきたことではダメで、もっと力をつけなければいけない」と否定されてきたように感じる。教育観には動きがある。それに余り左右されないようにしたいのが私達の思いである。子ども達に力をつけていくことが大事であり、アクティブラーニングをお題目のようにあまり唱えまいと思っている。もちろんアクティブラーニングの考え方は今までもやってきているので、そこを伸ばしていくということはだいぶ認識はしてもらっているかと思う。例えば、影山メソッドにしても、確かに学力は上がるがそれがすべてかというのと、両者の意見を取り入れながら判断していく力をつけることはできない。バランスを取りながらやらなければならない。今回の高校入試の作文の問題でも、正解がない問題であった。いくつかの条件を使って答える形式だから、答えが幾通りもある。そういうものに教員は慣れていき、保護者にもきちんと伝えていくことが大事である。やはりまだ、試行錯誤のところがある。今後、指導主事も勉強しながら各学校には指導していきたい。 |
| 会長 | アクティブラーニングは教員の発想を変えないといけない。学力観からして今までは違う。先の先を見越した学力観なので、よく研究してかからないと危ない。 |
| 委員 | アクティブラーニングは、指示を与えて動く子どもではなく、自分がやりたいことをするためにどうすればいいのかを考え行動する子どもの育成であったり、問題にぶつかったときに解決できる技術を身につけるための手法であるという理解を、保護者にしていただく必要がある。そうすれば、幼児期からの保護者としての子どもへの関わり方も変わってくるのではないかと思う。保育園や家庭でも、自分で考え行動する子どもの育成の重要性を認識してもらえると、より効果が |

| | |
|-----|---|
| | あると思う。 |
| 委員) | 教員も親も我慢がいると思う。このやり方は効率が悪い。しかし、やったことは確実に身につく。受験では、相当できる子は別として、正解をたくさん覚えた方が効率がいいという考え方が強い。だから、親が心配してしまう可能性もある。よかれと思ってやったことがマイナス効果ではいけない。丁寧に保護者に理解を求めながらやってほしい。 |
| 委員 | Hyper-QUがはじめを許さない体制づくりにどう効果があるのか、もう少し詳しく教えて欲しい。 |
| 事務局 | 子ども達の関係とか、その子が学級でどんな状態であるのかが分かる。検査結果から分かったことを職員会や学年会で話し合いながら、必要に応じて面談をしたり、改善が必要であれば手立てをしたりという取組をしている。 |
| 教育長 | Hyper-QUは学級集団満足度調査である。調査から今の学級の状態が見える。しかし、これはあくまで調査であり、この調査を基に聞き取りながらなぜかを探ることが大事である。個々の子ども達の相談にのりながら、また全体としての指導を加えながらよい学級にしていくためのツールである。 |
| 委員 | Hyper-QUは、その時点での学級の状態を把握するということがまず1つある。人間関係が良くて居心地がいい学級なのか、それともばらばらなのか、孤立している子がいるのかが分かる。また、質問紙がありそこから学級の問題点に分かる。当然、その問題点によって手立てが違ってくる。どういう手立てをしていくのが本来の目的である。担任のみならず学級の関係者、あるいは学年部を通しながらお互いの状況を把握するなど全校体制で取り組んでいる。居心地がいい学級にしていくにはどうするかという調査であり、活用が問題だといつも思っている。 |
| 教育長 | 調査結果を読み取れる先生ばかりではないので、専門の先生や指導主事に来てもらい研修会を開催したりもしている。予算的には、小中学校ともに3学年2回分を計上している。小学校の学年については各学校にお任せしている。 |
| 委員 | 実施計画に、具体的な内容が詳しく書かれている項目と、「家庭教育の充実」の項目のように「教育講演会の実施」しか書いていないものとばらつきが気になる。家庭教育の充実は講演会だけなのか。他にもしているのではないかと思うが、空白はどうか。また、以前の学校教育審議会で、「教育を考える会」というネーミングは敷居が高いので、名前について考えてみないかという話があったと思うがそれはどうか。 |
| 事務局 | 家庭教育の充実については、今後考えて行く必要があるか。今、家庭教育の充実が問われているので、まず手始めに小中PTA連合会と連携を取りながら進めている。 |
| 会長 | 家庭教育も社会教育の立場でやっていかななくてはいけないのではないか。 |
| 教育長 | 県教委は、PTAの担当を社会教育の方から学校教育に入れてきた。市もPTAの担当を、生涯学習から学校教育に入れた。やはり、学校とPTAとは密接なつながりがあるのでその方がいいかと思う。勿論社会教育の分野でもあるのでそこが難しい。PTA役員と市教委とで話をしていきながら事業立てをしていく必要があるのか、まだこの中には入れ込んでいない。 |
| 会長 | 市でいうと生涯学習課とも連携をとっていかないと。教育を考える会についてはどうか。 |
| 委員 | ネーミングについては、それぞれの地区で考えればいいことではないか。 |
| 委員 | レジュメの8ページの、「問題行動・不登校についての未然防止と早期対応」についてだが、①～⑥の内容は今までやってきてないからしようとしているのか、効果があるから強めようとしているのか詳しく教えてほしい。 |
| 事務局 | それについては、協議事項(4)その他のところで協議をしていただきたいと考えている。 |
| 委員 | 教育振興基本計画28ページ「倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」について、地域間の格差があるかどうかを知りたい。成徳地区の小学生は、白壁土蔵郡や赤瓦が近いのでよく知っているだろうが、他の地区の子どもがどれほど知って |

| | |
|-----|---|
| | いるのだろうか。 |
| 事務局 | 市バスを活用して出かけやすい状況にはなっているので、倉吉市全体に出かけて良さを知る取組はしている。学校によっては、アンケート結果に差はあると思うが大きな差はない。 |
| 教育長 | 大きな差があれば気がつくと思うが、印象にないということはさほど大きな差がないということかと思う。全国と比べると、地域の行事に参加している率が高い。鳥取県自体も高い。 |
| 委員 | 全国学力学習状況調査結果を見ると、鳥取県は全国的にも高い状況にある。 |
| 委員 | 河北小や上北条小の児童は、伝建群からは遠いので遊びに来ることもなくよく知らない。学校教育の方で推進していかないと、何も知らないまま育ってしまう。 |
| 教育長 | 学校ごとのデータを見ないと私も何とも言えない。 |
| 委員 | 今の質問は、河北小や上北条小の児童が行事に参加するということか。 |
| 委員 | 行事というよりは、こういった町並みや伝統的なものがあるという文化を知ることができないということ。休日に、親子で伝建群の方へ遊びに来るのかというとそうでもない気がする。学校教育の方で倉吉の文化を伝えることは、意義を持つてくるのではないか。 |
| 教育長 | このアンケートは、倉吉の伝建群のことを知っているかという意味ではないので、例えば、高城の子ども達は、高城の文化に置き換えて答えているのだろうと思っている。倉吉市全体の文化財については、まだ知らないことの方が多いだろうと思う。 |
| 委員 | 学校教育だけではなく社会教育の中でも取り組んでいくことになっていくとは思っている。ふるさと学習ということが打ち出されて、学校・PTAでも意識して取り組むようになった。以前は、校区に何町があるか子ども達は全然知らなかった。最近では、何町かを子どもの方が教えてくれるようになった。効果だと思う。大人が子どもに伝えることを意識したら変わってくると思う。 |
| 教育長 | そういった機運は各地区では出来てきた。倉吉市全体のものというものはまだきついか。 |
| 委員 | まずは自分の住んでいるところから知ってほしい。上灘に住んでいる子が成徳のことを一生懸命勉強しなくても、自分が住んでいる近くにこんな石があって、それにはどんな意味があってということ、小学校で教えてもらう方が自然だし愛着が強まると思う。大人になれば赤瓦も伝建群も分かるので。 |
| 会長 | その他に意見がないようなので、協議事項（１）（２）を終わり（３）に移る。 |
| 事務局 | 適正配置推進計画に沿って説明 |
| 委員 | ５ページの矢印についてだが、灘手小の説明会の時には、点線は前の計画であって新しいものではないと説明があったように思うが。上小鴨小の点線は、前の計画のものかそれとも今も生きているのか。 |
| 事務局 | 点線は前の計画のもの。今の計画だと、上小鴨小学校は小鴨小学校と統合を考えている。 |
| 教育長 | 例えば社小・灘手小のところも点線を残しているが、これは今までの経緯を示している。現在は右側の太枠の３校案となっている。 |
| 委員 | 上小鴨小からの点線で、倉吉第四小学校のところに行くことはないのか。 |
| 教育長 | 地域を分断するということで大反対運動があったので、学校を一つとして小鴨小へという案を考えた。灘手小も社小へという案を出したが、社・灘手・高城・北谷のPTAの協議も含め意見をいただき、灘手小・成徳小・明倫小が一緒になり東中学校へ進学する方がいいのではないかと考えた。その時その時の状況によって変わってきているのも事実である。この図はそれも見えるようにした。 |
| 会長 | 説明会で住民の意見を聞くと、どれだけ聞くのかという声がある。住民の意見が出てきたら計画を変えるのか、それとも譲らないのかというところが争点になってきている。成徳小は明倫小と統合して校地は明倫小という計画だが、 |

| | |
|-----|---|
| | 明倫小に行くのは成徳地域の人ほとんど反対している。新しい校舎の活用にしても、地域の住民の要望を聞いているのかという不信感が出てくる。教育委員会と地域とがやり合うような変な動きが出てきて感情的になったら解決しない。統合は難しい問題であり、時には肝心の子どもが忘れられてしまい地域のことばかりになってしまったりすることもある。教育委員会も言い方を考えてもらったら。「地域の住民の意見を聞く」と推進計画には書いてあるが、説明の中にそれが出てこないのではないかという声がある。 |
| 教育長 | 正直言ってえらい。もちろん予算のことも考えおかねばならないし、住民の意見も人によって違う。その中でまとめていかなければならないのは確かにえらい。 |
| 会長 | 審議会として答申を出した以上、責任を感じている。 |
| 教育長 | 答申の案からはずれていない。3校での統合案は、答申の「ある程度の規模を確保する」ことをクリアしている。単独存続は答申案からずれてくるので譲れないということである。成徳小・明倫小の場所については、様々な意見がある。「統合することはやむを得んだろう」というところは理解していただいていると思う。校舎としては、各学年2クラスが入るスペースがなければいけない。よって、成徳小では更にもう1棟建てなければいけないということになる。だから教育委員会としては明倫小にという提案をしている。 |
| 会長 | 教育はそんなものではないということで、なかなか納得がいかない。地域住民の声をよく聞いてもらって。では、不登校の問題に。 |
| 事務局 | 資料に沿って説明 |
| 会長 | 質問等を受けたいと思う。 |
| 委員 | 今年度は、今までやってきたことを同じようにするのか、それとも新しいことに取り組むのかを伺いたい。 |
| 事務局 | 中学校の方で、家に閉じこもっている生徒が多くいる。今年度の新しい取組として、そういう生徒に対してアウトリーチ型（家庭訪問）支援を行う支援員を中部子ども支援センターに2名配置した。学校と連携しながら学習支援を行ってきたい。 |
| 委員 | それでうまくいけばいいが、正直疑問がある。不登校になった子への対策ももちろん大切だとは思いますが、もっと未然防止策の方に力を入れた方がいいのではないか。例えば、1日休めば家庭訪問に行くとか、担任が普段からきちんと様子を見ることが今まで以上にできるとか。また、中学生で不登校の発生率が上がるのはいろいろあるだろうが、小中ギャップがあるはずなので、ギャップを感じている子に対しての早めの対策を考えられないか。 |
| 会長 | その他にはどうか。こんなことをしているとか、こんなことをしてみたらという提案はないか。教育委員会もそのあたりが知りたいということなので。 |
| 委員 | 今まで多くの不登校・問題行動のある子ども達に関わってきた。様子を見てみると、基本的には親子関係が崩れていることが多い。なかなか自分の気持ちが周りに伝えられず、学校に行っても自分が出せない、自信のなさもあってだんだん学校から遠くケースや、家庭での生活時間が狂っており、朝が起きられないというケースもあった。放任状態の家もある。いろいろな例があるが、基本的には子どもの権利が守られていないのが一番根っこにあると思う。非行に関わっては、10年前に関わった子達はハングリーで食べられない状況だったので、食べることで引っ張れた。今の子達は食べることで引っ張れない。お金はあるスマホはある。自由気ままに生活している。何を持って引き戻すかといったら、やはり学力をつけなければと思っている。うちの施設では、学習支援と料理教室をセットアップした事業をやりたいと思っている。厚労省の事業に応募したがまだ返事はない。マンツーマンで指導者を子ども達につけないといけないと考えている。学力が小学校の2、3年で止まっているとすれば、中学校に行っても1年の後半にはついていけない。やはり、学習支援も進めていかないと、家庭で学力をつけるのが困難な家が多いし経済的に困窮している家もある。中学校に上がるま |

| | |
|-----|--|
| | <p>でにきちんとした親子関係が築けていない家庭では、子どもは中学校では親の言うことを聞かないので、親だけでは歯止めができない状態になっている。責任を家庭に負わせるのは困難な状況に陥っている。一人ひとり状況は違っても、根っこにはやはり親子関係の崩れがあると感じる。ただ、子ども達には社会規範・ルール・マナーを教えなければいけないし、生活力もつけなければいけないので、子どもが気づく仕掛けをどうつくっていくのか。誰かそばにいる人が必要だということ、子ども達を見て感じる。どの子も自信がなく、自尊感情が低い。そこをどう上げていくか。認めてくれる人間がそばにすることが必要かと思う。以前、不登校生徒が80人いる時代を経験した。その年代が今親世代かとも思う。保護者自体もどう子どもに関わっていいのか分からない。具体的な声かけもとまどいがある状況なので、先程の家庭教育の部分で子どもへの具体的な声かけを学べるような研修会をしていかないとと思う。「ダメだ」だけでは子どもは育たないので、褒めるところと毅然とした態度でするストップさせるところとを学んでいただく機会が必要かと思う。また、保護者が送り迎えできないので、支援センターに行けないという子もいる。そのへんをどうするかを考えていかないといけないと思う。</p> |
| 教育長 | <p>支援センターは必ず進路保障をしてくれる。あそこにつなげていけば何とかなる。しかし、そこに通うまでに難しい状況があるので、支援員の2人につなぐことをお願いした。学校は、欠席が3日になるまで放っているわけではない。心配な子は1日でも動くときがある。少なくとも3日間、顔を見ないことはないようにお願いしている。小中ギャップの問題は小中連携の問題であり、学力とも合わせてやっていく必要がある。河北中校区では、養護教諭等関わりながら、生活の自立を1つの切り口として小中連携を行っている。何が解決策になるか分からないが、やれることはやってみようと思っている。親子関係の崩れについては、中部子ども支援センターの松嶋先生は、「崩れた時が、一度親子関係を見直すところである。立ち直ったらうまくいく。見直しをしないままではいけない。」と言われる。そういった考え方を、本当は保護者研修会でやってもらいたい。小中学校の保護者研修会が、携帯等のトラブルが増加している状況を踏まえ、携帯等に関する研修会だけが多くなっている。時代が変わろうとも、学年に応じて押さえないければならないことがあると思う。そういった意味では、PTA研修の体系化ということも必要ではないかと提案させてもらっている。昨年度は、幼稚園から大学受験まで見ておられる、鳥取短期大学附属幼稚園・保育園の横濱園長に講師をお願いして、小中合同のPTA教育講演会を開催し一つのいいきっかけをいただいた。特効薬はないので、いろいろな迫り方が必要かと思う。</p> |
| 委員 | <p>このグラフの波を見ていると、小学校の時に不登校だった子どもが中学校ではどうなのか関連があるように見える。小学校で多いと、やがて中学校でも多くなってくる。小学校の時に不登校になる児童にどういう特徴があって、それにはどういう対応が必要なのか、中学校のギャップのせいで不登校になる生徒には、どういう特徴があってどういう対処が必要なのか、少なくとも2つに分けて対策を考えた方がいいと感じる。全部不登校だからと一括りにするのではなく、現れ方・対処の仕方に違うことがあるのではないかとと思う。</p> |
| 教育長 | <p>確かに小中で関連はある。しかし、中学校に入ってから新たに不登校になるケースもあるので、おっしゃるようなことが必要かと思う。</p> |
| 会長 | <p>私も現場にいて確かに不登校問題には頭を痛めた。原因は違うし中身は違うし。一番効果があったのは、不登校の子を持つ保護者の会だった。夜に開催したのだが、その保護者が出席可能な時間に会を開いた。「不登校はその保護者が一番苦しい」ということを聞いたもので、では集まって悩みを出し合い共有してもらって、その中から知恵を出し家庭で実践していくということをした。一番これが効果があったかと思う。この知恵は、大学の心理学の先生からの提案で結構良かったと思う。ただ、それで全部が解決するかというとそうではないが、親自体が変わってくる。「気持ちが楽になった。一人でまいっていた。」と言われていた。親が楽になると子どもも変わってきた。「学校に近づくと足が動かなくなる、学校という言葉を聞くと腹が痛くなる。」ということが実際にあるわけ</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>で、こういう子どもに対してはいろいろやってみなければと思う。</p> <p>2点目は、教員・担任の対応である。敏感にその子の変化をとらえられる教員かどうか。私はいつも「敏感になれ。危機感を持て。」と話していた。実はこの前、市内のある人から公民館に「今日は小学校は休みなのか。小学生が1人うろうろしていた。」と電話があった。学校に電話してみたら、確かに学校に来ていないとのことだった。「今朝本人から、熱があるから欠席すると連絡があった。」と担任が聞いていた。本人が直接学校に欠席連絡をするということで、ピンとくる先生とそうでない先生がいる。そういう面があちこちであるのではないか。精神的な面で不登校は本当に大変で、高校・社会人まで引きずってしまう。しっかりサポートをしていく必要がある。</p> |
| 委員 | <p>保育園の送迎の時に、保護者同士で立ち話ができる方はいい。一人親子で帰られる方には、出来るだけ職員が声をかけるようにしている。忙しかったり子どもがやんちゃだったりといろんな原因があるとは思いますが、三つ子の魂というところで大切にしたい。</p> |
| 教育長 | <p>私も経験があるが、不登校の子と向き合った時に、同僚の先生とSCとで作戦をもって複数で対応したのが良かった。不登校の子を抱えた教員というのは、本当に落ち込む。自分のせいだと責めてしまう。それを防ぐには、複数で対応するのが基本。体制をつくりチームで当たる。</p> |
| 会長 | <p>では、4その他について</p> |
| 事務局 | <p>倉吉市立小・中学校の学校運営協議会指定について説明</p> |
| 会長 | <p>意見はないか。なければこれで協議は終わりとする。</p> |
| 4 閉会 | |